

若年層入職促進へ

三井住建道路、中部大で課外授業

三井住建道路は24日、愛知県春日井市の中部大学で課外授業プログラムを実施した。若年層の入職を促すため、道路建設業界の役割や建設ICTの取り組みなどを紹介した。同大工学部都市建設工学科の杉井俊夫教授の授業の一環として3年生8人が受講した。

最初に、同社の概要と働き方改革に関する取り組みや、道路建設業界の役割などを説明した。続いて、建設DX（デジタルトランスフォーメーション）を実現するための施策と道路工事における情報化施工などを解説した。



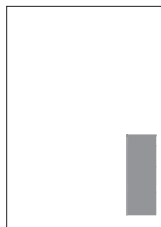
NEXCO発注の現場

ICT路盤工をリモート見学

リモートによる現場見学では、NEXCO 中日本発注の新東名高速道路新清水IC代替駐車場設置工事（静岡市）で施工しているICT路盤工を紹介した一写真。

学生が「TS（トータルステーション）はグレーダー以外にも接続できるのか」とたずねると、同社社員は「バックホウなどにも使える」と答えた。「ICTの導入で工期を短縮できたか」との質問には「丁張りの手間が省けるので2、3日は縮減できる」と回答した。

最後に、同大OBの若手社員が、入社からこれまでの仕事を振り返りながら建設業のやりがいを語った。



大学生がICT舗装など学ぶ



三井住建道路は24日、愛知県春日井市の中部大学でインターンシップ（就業体験）を実施した。写真。工学部都市建設工学科の3年生8人が参加。同社の概要や建設業の働き方改革の取り組み、ICTを活用した舗装工事などについて学んだ。

鶴巻昌之理事管理本部総務部長のあいさつに続き、岩谷良太採用担当課長が会社概要や建設・道路業界について説明し「道路は社会生活の基盤。壊れると

三井住建道路インターンシップ

物流や通勤・通学が困難になる。災害復旧も役割の一つで、東日本大震災でも復旧事業に携わった」と話した。

工事管理部の寺内和子さんが国土交通省が進める建設DXや道路工事のICT施工技術を説明した後、静岡市清水区が進めている「新東名高速道路新清水IC代替駐車場設置工事」の現場をリモートでつなぎ、ICT

路盤工の施工の様子を紹介。都市建設工学科卒で埼玉県の朝霞共同アスコンに勤務する高木開地さんは品質管理の仕事について説明した。

学生からは「ICTの導入でどの程度、工期が短縮できるのか」「建設業界は体育会系のイメージがあるが実際はどうか」などさまざまな質問が出され、担当者が分かりやすく回答。担当の杉井俊夫教授は「現場のリアルタイムな姿を見ることができた」と感謝した。

鶴巻部長は「地味だがなくてはならない仕事。男女関係なく活躍している。建設業界の魅力が伝わり、理解してもらえたらうれしい」と話した。

